

6月24日から始めた中干しも例年では2週間ほど行うのですが、今年は晴天と暑い日が続いたことから10日間程で圃場が乾燥し大小のヒビが入ったため、7月4日にいったん中干しを終了し、圃場全体に注水を行いました。その後2~3日ごとに水止めと注水を繰り返す水管理を行っています。

7月5日にリン酸を主とする追肥の散布行いました。7月18日現在、稲丈約60cm、莖数20~25本に生長しています。

大小のヒビが入った圃場



追肥の隣肥



追肥の散布状況



植物(稲)が必要とする 元素(肥料)

肥料の3要素 窒素(N)

主に植物を大きく生長させる作用があり、**葉肥(はごえ)**といわれる。過剰に与えると、葉や茎が徒長し、軟弱となり倒伏したり、病害虫に侵されやすくなるので、稲の葉色(緑色)加減を見ながらの追肥を行うこととなることから、経験が必要とされています。

リン酸(P)

主に開花結実に関係することから、**花肥(はなごえ)** **実肥(みごえ)**とも言われる。日本は原料のリン鉱石の全量を輸入に頼っており、その多くを中国に依存していることから、将来の原料確保の点からも不安のある肥料といえます。

カリウム(K)

カリ(加里)と略していることも多い。主に根の発育と細胞内の浸透圧調整に関係することから **根肥(ねごえ)**といわれている。使用にあたっては、小出しに追肥等で使用するのがよいとさせています。

稲丈約60cm、莖数20~25本の調査確認状況 (7月18日)



孫の監督の下、畔の除草作業



先月号でも述べましたが、除草剤を使わないため4回目の除草を行いました。この除草機は斜度30~40度、長さ2m程度の畔まで刈払いできることから、助かっていますが、30度を超える暑さの中での作業は疲れます。

保冷库管理米

お米は、梅雨時の湿度と、夏の暑さで、美味しいお米も、急速に劣化してしまいます。

当農園では、数年前からこの時期発送するお米は、室温12~13°のお米専用保冷库で管理したお米を発送しています。

発行者：〒944-0023 新潟県妙高市西条755

妙高西条農園長 池田博子

☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908

E-mail: ikeda@kanta.jp

ホームページ URL: <http://www.kanta.jp>

水路で育ったヤゴからのオニヤンマの羽化